

JAITI 28

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

JAITIとは、「財団法人日本農業研修協会の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの略称で「ジャイチ」と呼びます。1999年、農業を生涯職業とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる根幹」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発行所 財団法人 日本農業研修協会
〒386-0502 長野県小県郡武石村9456
TEL 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583
東京連絡所 〒113-0031 東京都文京区根津1-19-3 (小林栄)
TEL 03-3828-9263 FAX 03-3828-9262

今日のジャイチ

みなさま、こんにちは。
まず、ジャイチの15年間の活動をまとめた記念誌「ネパールの人々とともに」が、ジャイチ15年の活動記録が二〇〇四年十二月に刊行されたことを報告いたします。単なる活動のまとめではなく、ジャイチが汗と涙(？)で積み取ってきた国際協力やボランティアのノウハウと心得が抽出されています。ジャイチがジャイチたる所以が、五〇ページの小冊子



に凝縮しています。ほぼ各ページに写真やイラストを配し、読み易いと好評です。今後、ご寄付をいただいた方々に、お送りしていく予定です。

き、支援者の輪が広がることを期待しています。
二〇〇四年七月には、本ニュースレター六ページで紹介しているように、外務省からNGO相談員に委嘱され、国際協力やボランティアに関する情報提供や助言の活動を以前にも増して行うようになりました。
十月には、国際協力NGOセンターの正会員になることが、センターの理事会で承認されました。これは、ジャイチが名実ともに日本のNGOとして実績が認められたことを意味します。今後は他のNGOや日本政



▶建設が進むカカニ新学校(四月開校予定)



▶ジャイチネパールのスタッフたち

左からグルンさん、KCさん、ナンダさん、岡さん、マンさん

ネパールにおけるカカニの新学校の建設は、若十の遅れは出ているものの、今年四月十八日の開校に向けて、奇跡的と思えるほど順調に進んでおります。内戦による混乱が続くネパールにおいて、輸送がしばしば途絶えたり、資材が急に値上がりしたり、予想以上の困難に見舞われていますが、その中で着々と仕事を進めるジャイチネパールのスタッフがスタッフたちには、誇りすら覚えます。

また一七頁で報告したジャイチネパールの強化方針に従い、今までのような会社形態だけではなく、NGOの法的立場を獲得すべく、新たにNGOとしてのジャイチネパールの設立準備を進めています。理事にはジャイチネパールのスタッフに加え、新たに強力な社会活動家が募集されました。ボカラでストリート・チルドレンとその家族の支援活動を行っているチルドレン・ネパール代表のラム・チャンドラさんや、日本で看護婦の資格をネパール人として初めて取得後、ネパールで保健衛生のための人材育成や日本語教育の向上のために尽力しているマンガラ・トラダールさんなどです。

財政状況は引き続き厳しい面があるものの、少しずつ新生ジャイチの組織、活動基盤が整いつつあります。皆さまのより一層のご理解とご支援をお願いいたします。

(常務理事・事務局長 鎌田陽司)

ユニーク品読「和を語る」

小林榮理事長が島田基正副理事長らとともに日本人の心は「和」が基本であると主題した本を出版し、ユニーク品読「和を語る」出版記念特別講演が、十二月四日に長野県上田市で開催されました。

参加者は九〇名で、先ず、菊池副理事長がジャイチの活動について説明し、続いて小林榮、島田基正、小宮山宗輝(郷土史研究者)、の三人が本の出版の経緯などを語る品読がありました。

ユニーク品読「和を語る」定価、〇〇〇円 送料別
ご希望の方は、事務局又は、東京連絡所までお申し込み下さい。

カカニ農場とその近郊における作物の収穫時期

作物など	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
イチゴ												
さつまいも												
キウイフルーツ												
大根												
カリフラワー												
スイートコーン												
桃とプラム												
ニジマス												
ハイキング												
ヒマラヤの眺望												

アグロツーリズム 開発計画

Agro-Tourism
Development Program
(ATDP)

なぜイチゴ狩りなのか？

イチゴはジャイチがネパールに導入、普及した作物で日が浅く、ネパール人はまだイチゴのことをよく知りません。「イチゴの実って木になるの？ 蔓になるの？」って聞かれます。そんなとき、

離ですの、何かアトラクションがあれば、行く人が増えるでしょう。外国人や都市に住むネパール人がカカニに来て農産物を味わうようになれば、カカニに現金が落ちることになります。うまく仕掛ければ、良い地域振興になるのではないのでしょうか。

そんなこんな考えから、イチゴ狩りを中心とするアグロツーリズム(農村観光)の開発計画が生まれました。

また、カカニにはイチゴだけでなく、良い品質の野菜が育つことでカトマンズの人々に知られています。JICAの専門家が導入した日本の美濃産生大根やジャガイモが定着しています。

ジャイチが導入したサツマイモやキウイフルーツも定着、普及しはじめています。もっと高価値の農産物を生み出すことができるはずだ、とジャイチは今考えています。

カトマンズの中心部から車で二時間ほどの距離です。

準備していること
カカニ農場にはラクバ、シェルバ農場長の家族が住む管理棟がありますが、そ

想定している参加者
イチゴ狩りなどの農場での体験型レジャーに参加してくれそうな人として、以下のような人たちを想定しています。

またイチゴという作物を見たことがない人(大部分のネパール人)
週末のリクレエションを求めているカトマンズ在住の外国人
半日、あるいは一日分の時間の余裕がある観光客
NGOの成功事例を見学したいと思っ

国際機関、NGOの職員、外国の大使館関係者など
農業体験学習をしたいと思っ

ぜひご来訪を
折々、日帰りのイチゴ狩りツアーというのを組みますし、あるいは適当に来ていただいてもお楽しみいただけるようにしていきたいと思っ



▲カカニ農場でのイチゴランナー取り作業

またイチゴという作物を見たことがない人(大部分のネパール人)
週末のリクレエションを求めているカトマンズ在住の外国人
半日、あるいは一日分の時間の余裕がある観光客
NGOの成功事例を見学したいと思っ

新評議員の紹介
石谷孝佑氏：独立行政法人国際農林水産業研究センター国際研究総括官を経て、二〇〇五年一月までJICAの中国特約的農業技術研究開発計画チーフアドバイザーとして北京在住。専門は食品包装、食品品質保持技術、伝統食品加工を中心に変革幅広い。
根深誠氏：著述家。白神山地を守る会代表として、白神山地の保全のために大きな役割を果たした。ネパールとの関わりは深い。

◆◆ 評議員名簿 ◆◆

(平成17年1月1日～平成18年12月31日)

井出 守雄	長野県武石村	(再任)
岩崎 古一	東京都立川市	(再任)
小山田秀士	長野県丸子町	(再任)
清住 隆幸	長野県武石村	(再任)
工藤れい子	長野県上田市	(再任)
小林 淳	長野県長門町	(再任)
小林 弘	神奈川県大和市	(再任)
小山 守浩	長野県武石村	(再任)
松浦 浩	神奈川県大井町	(再任)
宮坂 公子	長野県上田市	(再任)
石谷 孝佑	茨城県つくば市	(新任)
根深 誠	青森県弘前市	(新任)

通りがかりの人(カカニ農場は、カトマンズとトリスリ/ランタンヒマラヤを結ぶ幹線道路沿いにあります)

ぜひご来訪を
折々、日帰りのイチゴ狩りツアーというのを組みますし、あるいは適当に来ていただいてもお楽しみいただけるようにしていきたいと思っ

バシファント学校 寄生虫調査 および 学校保健プログラム



▲寄生虫調査中の森木医師

バシファント学校における寄生虫コントロールプログラムも今年で七年目を迎えました。私は昨年より防衛医科大学校に移り、衛生学講座において感染症を中心に研究を進めています。立場は変わりましたが方針は以前と変わりません。児童の教育を通じて地域に公衆衛生概念を普及するというのが当初の目的をしっかりと行きたいと考えています。

今回、新しい図書館兼実験室兼診療棟が完成しており、検体採取、衛生教育、診察、治療すべてこの建物の中で行われました。時間の関係から、検査を現地で行うことができません。すべての検体を日本に持ち帰り行いました。寄生虫罹患率が数%まで減少していました。現在この原因について衛生教育が功を奏してきたことによつての現象かどうか解析中です。

体制については今年より保健師の岡生子氏がすでにカトマンズ入りしており、来年から学校に常駐されるため非常に心強く思っております。今後の方針としては岡氏と連絡を取り合い、児童の衛生教育を行うにつれ、そろそろ児童による地域への衛生概念の普及も視野に入れた方法をとって行きたいと考えています。またカウンターパートのジーバン先生も武田科学振興財団からの助成金により日本に留学することも決定し、滞在中に十分討論し方針を決定して行きたいと考えています。

肝心の資金については一回当たり約一〇〇万円の経費がかかるため、ジャイチでいくらか予算配分があげられたいところですが、なんとか他から助成金を得ることができるよう努力していきたいと思っております。最後に、学校側にお薬を提供していただいた徳島のふたば薬局、近藤茂雄様、児童生徒への健康手帳印刷費をご負担いただいた歯科医師、浜松孝典様、またご指導、ご協力をいただいた防

ネパール農業とカカニ農場の近況

六月から十二月まで三回ネパールに滞在しました。この間の状況についてお知らせします。

◆又ワコットの農業振興
十一月に郡都トリスリにある郡農業開発事務所のカナル所長を訪ね情報交換しました。当団の活動内容、イチゴ栽培の問題点、マルチ栽培の効果などの確に把握されており驚きました。

郡・JICA（国際協力機構）当団の三者一体となった取り組みが重要だと力説され、特に当団に対しては技術指導を強く期待していただきました。当団がカカニ実験研修農場を拠点に農業指導に取り組んできた事への評価と実感しました。

またJICAが本年から五カ年計画で取り組みを始めたプロジェクト「ネパール農業研修普及改善計画」の川上、大丸、矢野の三氏を紹介いただき、さっそく連絡をとりカカニ農場で顔合せできました。

当団と関係の深いプロジェクトと思われ、お互いの目的、持ち味を生かした協力関係の構築が重要です。

◆シンバンジャン地区の農業振興
当団はカカニ実験研修農場を拠点とした農業振興とカトマンズ南西九〇kmのマカワンプール郡シンバンジャン地区での一〇年間の学校運営が二本柱でシンバンジャン地区農業への関わりはありませんでした。

しかし、学校も設立十二年を経過し、卒業生への職業教育の観点から農業指導にとり組む事になりました。九月にはイチゴ苗を持ち込み、一〇人ほどの卒業生に試験栽培の指導をし、十一月に状況把握をしてきました。当地は標高二三〇〇mを中心に標高差五〇〇mに及ぶ複雑な山岳地形の地帯です。

降雪もあるこの事ですが、気象データはなく、ブラスチック系資材も無い事から手さぐりの状態です。

また初めて現地の農業を見ましたが、キャベツ、カリフラワー、アブラナなどが多く日本と同じくアブラナ科野菜の大病害ネコブ病に悩んでいました。

日本でもまだ完全ではありませんが主流になりつつある「ネコブ病抵抗性品種」を使った栽培を検討すべく準備しています。本年中には一作目の結果がでます。

◆マルチ栽培の普及
カカニ農場で二年の試験からイチゴのマルチ栽培に確信を持ち、農家へ普及を進める事になりました。九月に二〇人ほどの農家に集まってもらい、指導会を開催しました。

普及するためには実際に栽培してもらう事が重要と考え全員に二〇mずつポリマルチを提供、取り組んでもらいました。

十一月に全農家をまわりましたが、すべての面で好評で来年からは全面積に取り組みたいという評価が多く意見を強くしています。

（農業指導員 土屋 興重）



▲ネパールに農業用ビニールハウスはなく、鉄製水道管を骨組みとし、日本から持ちこんだ部品は規格があわず、苦労しましたが何とかできました。寒い時期にこの中で育苗することにより、今までより作季・作期の拡大が可能となり、その経済的効果は計り知れません。高面サツマイモ、キャベツ、カリフラワー、カボチャ、キュウリなどの育苗を考えています。

進む 学校改革

財政自立8ヶ年計画

今年は二六人が合格！

高校卒業国家試験(S・L・C)にパシファント学校の一期生が初めて挑戦したのが二〇〇三年。二四人受験して三人しか合格しなかったことは、今までお伝えしてきただとおりです。不合格だった二人のうち一人が今年再受験し、今度はそのうち一人が合格することができました。

二期生の高校三年生(二〇〇四年生)二四人のうち、那レベルの試験に合格したのが一四人で、そのうち一三人がS・L・Cに合格しました。去年と今年で合計二九人がS・L・C試験に合格し、そのうち二五人が大学へと進学しました。

なぜ、合格率が劇的に向上したのでしょうか？教師の教授法が改善されたこと、生徒や学校運営調整委員会が教師の働きぶりをチェックする仕組みを作ったこと、教師や学校運営調整委員会

が村々を訪れて直接父兄と話し合う機会を積み重ねたこと、一〇年生が校内に住んで勉強に専念できるようになったこと、補習授業が行われたこと、こういった努力の積み重ねによるのではないかと考えられます。

教師のトレーニング

パシファント学校の教師たちのうち、特に小学校の教師たちの教授法が全般的に良くないということがわかり、八月の夏休み期間中に八日間のトレーニングを行いました。場所はカトマンズで、ジャイチネパールのチーフアドバイザーのグループが全体を調整、進行し、教師のうち八人が参加しました。ネパール政府の教育

省の専門家も支援のために参加してくれました。

教師たちからは、教授法をどう改善すればよいかわかった、自信になった、という声とともに、今後継続的にトレーニングの機会を与えて欲しいという要望が出ました。

授業料の現状と今後

学校を財政的に持続可能なものにするためには、授業料の形で父兄に経費の負担を求める必要があります。ネパール政府は公立学校において六年生以上は有料化するという方針を打ち出しているものの、父兄や政党、マオイストによるしばしば暴力を伴う激しい反対運動に遭って、授業料の徴収は



▶教師トレーニングを受けた教師ら

進んでいません。

そういう中にあるト学校でも急に授業料を値上げするわけにはいかないという現実があります。

昨年からは、授業料に関しては、ジャイチとの話し合いによって学校運営調整委員会が決定しています。以下がその授業料です。

保護者が支払う授業料

新たに入学する生徒に関しては、ジャイチではなく学校運営調整委員会がその経費の調達責任を持つという考えから、昨年度は1年生、今年度は1年生と2年生の授業料が高くなっています。今年度は、1年生が年間1300ルピー(約1950円)、2年生が1400ルピー(約2100円)、3年生が300ルピー(約450円)、4年生と5年生が420ルピー(約630円)、6年生と7年生が600ルピー(約900円)、9年生と10年生が800ルピー(約1200円)となっています。

合計で昨年度は概算で159,600ルピー(約239,400円)が授業料収入として得られ、今年度は236,000ルピー(約354,000円)が得られる予定となっています。

これらは、学校運営総経費(年間約300万円)のそれぞれ8%、12%に過ぎませんが、

今まではほとんど0だったことを考えれば大きな進展です。今後は学校の教育の質を上げつつ、授業料によって経費の50%程度がまかなえるようになることをとりあえずの目標として、6~8年ぐらゐの時間をかけて徐々に授業料の値上げをしていくことになるかと思えます。

但し、授業料に関しては被差別カーストに属する生徒は、授業料を全額免除することになっております。現在のところ、3人の生徒にその免除規定が適用されています。

学年	生徒数	2003年度		2004年度	
		生徒一人あたりの授業料	合計額(=生徒数*授業料)	生徒一人あたりの授業料	合計額(=生徒数*授業料)
1	40名	1,200	48,000	1,300	52,000
2	40名	240	9,600	1,400	56,000
3	30名	240	7,200	300	9,000
4	30名	360	10,800	420	12,600
5	30名	360	10,800	420	12,600
6	30名	480	14,400	600	18,000
7	30名	480	14,400	600	18,000
8	30名	480	14,400	600	18,000
9	25名	600	15,000	800	20,000
10	25名	600	15,000	800	20,000
	約310名		159,600		236,200

単位:ルピー

学校運営の財政見直し

このように学校運営のための必要経費は、父兄による授業料負担によってジャイチによる負担は減っていく予定です。しかし、パシファント学校の財政自立八ヶ年計画の二年目にあたる現在、直接経費だけでジャイチの負担は二二六万円になります(カトマンズ事務所やネパール人スタッフの人事費などの学校関係の間接

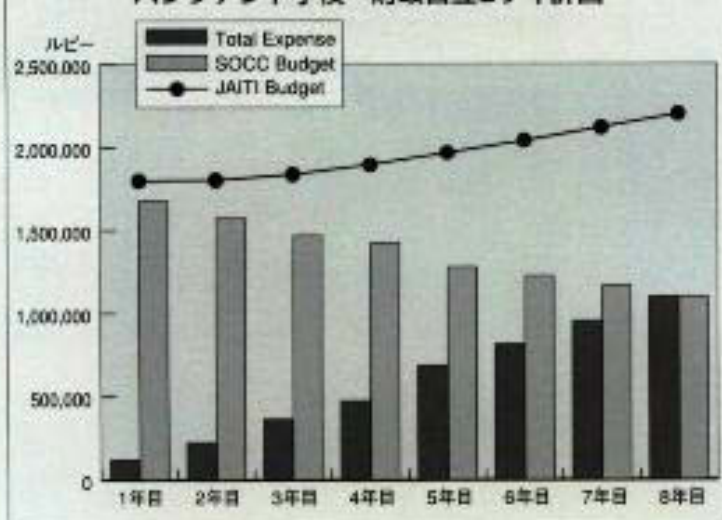
経費を入れると、三〇〇万円近くになります)。

今後、財政自立八ヶ年計画がうまくいったとしても、二〇一〇年度以降、毎年直接経費として一六五万円を負担する必要があります。これはジャイチにとつて大きな負担を言わざるを得ません。

育英基金への協力を
そこで、今までどおり皆

さまの寄付をお願いして、毎年の経費に充てることに、二つの方策を考えました。一つは育英基金の設立です。会報二七号でお知らせしたとおり、目標額四千万円の基金を設立し、その利子を運営費に充てる計画です。既に一三人の方々から合計一五万円ほどの寄付をいただきました。引き続きご協力をお願いいたします。

パシファント学校 財政自立8ヶ年計画



Total Expense: 学校運営に掛かる経費見積り額

SOCC Budget: 学校運営調整委員会の分担 (授業料)

JAITI Budget: ジャイチの分担

1ルピー=11.5円

里親を募集します

二つ目の方策として、パシファント学校に通う生徒を二〇〇五年四月以降世話してくれる里親を、今から募集します。原則的に各学年あたり二人の里親とします。つまり、二〇〇人の里親たちによって、一〇学年約三〇〇人の面倒を見ることが出来ます。一つの学年を一年間維持運営するためにかかる経費は、約二〇〇〇三〇万円ですが、このうち六万円分を里親一人あたりで負担していただければと考えています。

一年生を受け持っていた

だいた方は、原則的に一〇年生として卒業するまでの一〇年間、八年生を受け持っていたら、二、三年後には卒業して一区切りとなりませんが、希望すればまた新たに一年生を受け持つこともできます。各学年の二五名から四〇名ほどの生徒からは、里親に対して折々写真や手紙が届くでしょう。ジャイチツアーなどで現地を訪問すれば、自分が面倒を見ている子どもたちとご対面もできるでしょう。

里親になってくれる二〇人が見つかりますように！ (ビム・ラル・グルンと鎌田)

チベット伝統医療復興支援活動

伝統医療復興の意義

伝統医療を復興することは、西洋医学に基づく医療が行き届かない山間僻地において、ほとんど唯一の医療サービスを提供することだけではないのです。

利他心に満ちた土着の知識人である伝統医は、薬草の保全と活用、文化保全、コミュニティの活力維持などにおいても重要な役割を果たすことができます。

さらに先進国の人びとも、その医療と知恵による恩恵をもたらしつつあります。現行の西洋医学だけでは限界があり、人と社会は病むばかりです。人と社会が本当に健康になるために、東洋医学が果たす役割が今後ますます重要になってくることは、間違いないでしょう。

このような潜在力豊かな伝統医療の復興においては、西洋医学の枠組みに無理やりその一部を組み込むようなアプローチではなく、伝統医療のシステム全体を主体として捉え、現在及び未来において果たすべき役割を具体化し、そこに至るために戦略的に長期に亘って活動を継続する必要があります。

チベット伝統医療は、ネパール北部、インド北部、中国西部、モンゴル、ブータン、ロシアのバイカル湖周辺に定着しており、裨益人口は六百万人ほどに及ぶかと思われまます。

ネパールにおいては、ドルボ郡、ムスタン郡、ゴルカ郡、フムラ郡、ソル・クンブ郡、カトマンズ郡などヒマラヤ山岳地帯を中心に、チベット伝統医療が定着し、薬草などを生きた診療が行われています。

伝統医は、根本教典であるギユ・シ(四部医典)などさまざまな医学書を基にして、少なくとも数百年の教育を受けた年輩の伝統医から受け、知識と技を伝承してきました。

しかし、チベットをめぐる政治的変動による交易業の衰退、伝統的な文化とコミュニティの維持に配慮しない近代教育の浸透、国家が進める医療政策からの排除などによって、伝統医療は衰退の危機に落ちつつあります。

伝統医療の望ましい将来
将来構想のイメージは概ね以下のようになります。

① 伝統医が十分な教育を受け、必要な薬材や医療器具も充分確保し、安心して地域の住人に医療サービスを提供できる。
② 伝統医は伝統医療をしっかりと学ぶとともに、西洋医学の初歩的な知識と技能を持ち、西洋医学に基づく医療サービス体系とも連携、協力することが出来る。
③ 伝統医療が政府の医療と教育のシステムの中に正式に位置づけられ、伝統医は再構築された伝統医養成の教育システムに基づく正規の資格を得て、政府の関係機関でも職を得ることが出来る。
④ 伝統医が中核となって、地域コミュニティが薬草の保全と活用のために重要な役割を果たす。
⑤ 地域や国を超えた薬草等の薬の原料の流通・交換システムが再構築され、地元で採取が難しい薬材が入手できるようにする。
⑥ 薬の製造に関して、質の標準化と高度化が図られる。
⑦ 失われつつある伝統医療の知識や薬草のドキュメンテーションが行われるとともに、伝統医療に関するさまざまな研究活動が西洋医学の研究機関や関係国際機関などと協力して行われる。
⑧ 伝統文化の要となる伝統

医療が復興することで、伝統文化が再評価され、コミュニティが活性化し、住民が自信を取り戻す。

⑨ 伝統医の協会が強化され、復興のための活動を自ら推進できるようにする。

ジャイチが果たす役割
このようなビジョンを実現するためには、さまざまな課題がありますが、現在最重点を置いて行っているのは、前記の③の実現です。

辛い、ジャイチネパールのチーフアドバイザーであるビム・ラル・グルン氏は、出身がネパールの中のチベット文化圏、ムスタン郡トククチエであり、また元政府高官として教育省をはじめとしてネパール政府とのつながりを強く持っているのが、チベット伝統医療とその教育システムの認知を求めるネパール政府への働きかけを行っていくには、最適・最高の人材です。

彼の助力を得て、継続的にネパール政府への働きかけを続けており、近いうちに成果が得られる見通しです。もちろん、やるべき課題が多いので、さらなるチャレンジは続きます。ご支援、ご協力をお願いいたします。指定寄付は大歓迎です。

(鎌田)

ジャイチツアー紀行 向学の子ら 島田 寛治



白き神々の座マナスルに別れを告げて峠を越えたと八合目(二二〇〇m)程の所にバシファント校があった。全景を見下ろせる場所で、「あれが学校です」と言われ、まるで蘭紫の花のように青い屋根が点在しているのを見た時は感無量でした。亡き妻と、「いつかネパールへ行こう」と話し合いながら、今私一人だけがそこにいたか

らです。学校では校長先生や生徒代表が迎え、花束を渡し歓迎してくれる。我々一行の中の広島グループ四人も生徒・職員全員に行き渡る数の折鶴を持参して贈呈している。旅行中に六十四歳の誕生日を迎える小山さんが前に来た経験から四人で手分けして鶴を折って来たとのことでした。物見遊山気分でもた私は恥ずかしくなっていました。教事をのぞかせてもら

と、どの学年の子もみな礼儀正しく合掌して迎えてくれ、気持ちがいい。菊池さんの説明によるとこの学校のトイレはネパール一とのことです。三K、暗い、汚い、臭い、を徹底的に排除し、窓を大きく開けて水洗式、二学年に棟男女別仕切りのある便所、そして手洗い水道の蛇口の多さがその理由だという。聞いた時は半信半疑だったが、後日立ち寄った公立学校で、生徒が六百余人なの

に使えるトイレはたったの一つでしかも男女共用、まさに三Kそのものを目の当たりにして納得しました。通学は近い子で片道三十分、遠い子は二時間半かかるという。来るだけで疲れしてしまうと思うが、毎日八時間の授業を随分輝かせて生き生きと勉強している。「よく学び、よく働きよきネパール人」になるであろう向学の子らに感心しました。未知の国、ネパールに来て本当に良かったです。

とバシファント学校の皆さんとの一体感を感じます。ご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。本当にありがとうございます。(木曾郡上松町 上松中学校 校長 筒井 良二)

社会の発展と教育

今、世界では六〇億人に迫る勢いで人口が増加し、それぞれが豊かな生活を望み努力しております。然しながら思うように行かないのが実情です。

「豊かさ」を望むのは人間の本能ですが、改善の根本的得策は「教育の充実」以外に方法はありませぬ。

子供を一労働者として働かせている国が問題なので、それらの国にも事情があるろうかと思いますが、この際は大改革を望みます。

そして五十年百年のという計画を持って行うべきです。教育の充実が国民生活の安定に繋がることは世界中の国で実証済みです。我がジャイチの活動は、世界に誇れる人類愛に叶った行動と胸を張って語れます。

イラクの平和と安定が一日も早いことを祈ります。ジャイチの活動に賛同する

老人 高橋 和志

読者の声

上松中のトレーナー

晩夏の候、工藤先生におかれましては、ますますご健勝のことと拝察申し上げます。

六月の生徒講演会ではボランティアについて貴重なお話をいただきました。ありがとうございました。

また、先日はネパールのバシファント中学校で上松ジャイチをきた中学生の写真をお送りいただきました。ありがとうございます。

生徒・職員一同を代表して、お礼申し上げます。

本年度のネパールに古着(上松中という名前の人

NGO相談員としての活動から

提供された、粉ミルクを代表とするアメ

このNGO相談員が存在していることを市民や行政に知られていないこと、そしてNGO活動に参加したり、関わりたいと思う市民がなかなか増えていっていないことであろう。

話はずが、第二次世界大戦後の日本の学校給食に提供された、粉ミルクを代表とするアメリカから寄せられた支援物資は、米田政府からではなく、米国のNGO団体が実行していたのです。

みなさんには、ぜひこの事実を知っていただき、ジャイチの活動にますます積極的に、参加されることをお願いいたします。

(副理事長 菊池健介)

外務省の委嘱を受け、ジャイチは二〇〇四年七月より、NGO相談員を担当してます(主担当 菊池、副担当 鎌田)。

全国では北海道、長野、愛知、兵庫、岡山、愛媛、福岡、沖縄が各一、東京五、大阪二団体の計十五団体が引き受けています。

中部地方で

はジャイチの他に名古屋NGOセンターが選ばれており、北陸・東北地方は一人もNGO相談員がいない。

実際のところ、問い合わせは全国から寄せられています。NGO相談員としてお受けする質問は、ネパールにおける国際協力に関する技術的な相談や生活上の相談、

いての授業担当臨時教員などを、こちらから出張相談員として出向いて実施して見ました。

高校生と接して、彼らは本やパソコンの文字や映像よりも、肉声を欲しているということを実感しました。問題は、外務省のNGO活動環境整備支援事業として、

▼ジャイチ 事務局だより

- 7月 機関誌27号を発送
NGO相談員制度契約書を外務省に提出
15年記念誌の打合せ
長野県アジア高校留学途次調査を県に提出
岡生さんがボランティアスタッフとしてネパールへ赴任
- 8月 国際農林業協会・交流協会へ専門派遣支援事業申請書を提出
日本郵政公社へ平成15年度国際ボランティア貯蓄完了報告書を提出
土産農業指導員をカカニ実践研修農場の指導でネパールへ派遣
菊池副理事長が都立成瀬高校のNGO相談員サービス
- 9月 菊池副理事長がNGO相談員連絡会議に出席
菊池副理事長ネパールへ総合指導でネパール出張
15年記念誌の編集作業
アユースへNGOプロジェクト評価支援の申請書提出(派遣)
藤田事務局長が現地NGOの立上げ等でネパールへ出張
- 10月 国際協力フェスティバルに参加(日比谷公園)
またこの国際交流フェスティバルに参加(丸子町)
小林理事長がネパール大使館送迎会に出席
ホームページ作成についての打合せ
長野県に公益法人について調査書を提出
- 11月 第15回JAITIツアー(菊池副理事長案内でネパールへ出張)
土産農業指導員をカカニ実践研修農場の指導でネパールへ派遣
菊池副理事長が埼玉県立上尾高校でNGO出張相談サービス(1回目)
(特活)国際協力NGOセンターの正会員に決定
- 12月 「ジャイチ15年の活動記録」発行3000部
菊池副理事長が埼玉県立上尾高校でNGO出張相談サービス(2回目)
理事会(評議員の選任)
機関誌28号編集会議
- バザーを有難うございます。
世田谷フリーマーケット(東京都世田谷区)
西門道の駅フリーマーケット(長野県長門町)
国際協力フェスティバル(東京都日比谷)
またこの国際交流フェスティバル(長野県丸子町)

ジャイチネパール▼

- 7月 岡生さん、7月8日ボランティアスタッフとして着任
バシファント学校の新しい教師雇用のための面接
- 8月 バシファントと学校の教師向け集中トレーニングコースをカトマンズで開催
ネパールNGOネットワークのカトマンズ大会に参加
- 9月 イラワでネパール人労働者被害を調査
カトマンズで暴動
シンパンジャン(バシファント学校の近所)で、イチゴの実験栽培を開始
小林理事長夫人などによるバシファント学校生徒への衣類の配布
- 10月 カカニ農場にマイオイスを贈る強盗が入る
ボカラのストリートチルドレンを支援しているチルドレンネパールを訪ね、今後の協力のための計画書を練る
ローカルNGOとしてのジャイチネパールの設立に向けた会合が開かれ、ネパール人の理事と役職が決まる
チベット伝統医療の認知を求め、保健省を訪ね
- 11月 カカニ農場にAICAFの助成金で小さなビニールハウスを建設
チベット伝統医療の認知のための提案書をWHOに提出
K.C.Shree Bahadurさん、1年間の試用期間を終え、正所職員になる
- 12月 カカニ農場で地場の農産物を売るお店を開店
ジャイチネパールのカトマンズ事務所の新築工事のため、事務所を仮移転

「懐かしい未来」運動



藤田が翻訳代表を務めた「ラダック懐かしい未来」(山と渓谷社)は、今

後の世界のあり方、生活のあり方を明快に掘り下げたものとして、お蔭様で好評で増刷されました。この本に基づく「懐かしい未来：ラダックから学ぶこと」と「地域から始まる未来：グローバル経済を超えて」という二つの映像作品を一つにまとめたビデオとDVDも制作されました。二五〇〇円です。ご関心がある方

はご連絡ください。お詫び
二七号ご協力者の基金、維持費、事業費で、林健夫さんのお名前を林健夫と誤ってしまいました。
人的協力では、国立市春木安介さん、越谷市野村奈美子さんのお名前を落としてしまいました。
お詫び致します。

お知らせ

◆全国キャラバン企画中

二〇〇五年から、ネパールの関係者を招いて日本各地で交流する機会を設けたいと思っております。第一弾として、五月下旬から六月中旬にマン、バハドゥール、シュレスタさんを招聘したいと考えています。北海道から沖縄までのどこかで受け入れを担当してもよいという人がいましたら、ぜひご連絡ください。

◆ホームページの開設準備

現在、ジャイチのホームページの早期開設に向け、準備中です。とりあえずアドレスが決まりました。
<http://www.jaiti.org>

◆メールリストの開設

Eメールを活用して、最新情報をお伝えしたり、支援者同士がやりとりしたりするために、メールリストを開設したいと思っております。ご関心がある方はぜひ事務局までご一報ください。

◆第十八回ネパールの農場と学校訪問の様子

- ・日程 十一月六日(日) 一十六日(水) 泊十一日
- ・費用 一十七万円を予定
- ・参加条件 一、二時間散歩が可能なる方。

◆主催 風の旅行社

・企画 (世) ジャイチ
詳細は次号でお知らせ致しますが、お問い合わせはジャイチ事務局まで、お願いいたします。

◆お願い

◆パソコンの寄付を
日本の事務局用にデスクトップ型を、ネパールの事務局用にノートブック型を寄付してください。(仕様条件有)

◆学校図書室に本を
バシファント学校及びカカニ新学校の図書室に本を寄付してください。絵本や写真集、英語の本などは、現地で活きたと思います。

◆古切手

古切手の収集が続いています。切手の回りに5ミリの余白を残して下さい。機関誌のご支援者名簿にお名前を掲載させていただくことで、お礼とさせていただきます。

尚、カードの収集は暫くの間休みます。

〔送付先〕〒二五八〇〇八四 世田谷区東玉川二〇一〇 安藤 雅子

◆物故者のお知らせ

ご冥福をお祈りしますと共に、感謝致します。
松本サト子様 十六年 (埼玉県川口市)

ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何時も心に留めて下さり、感謝申し上げます。下記のとおりに寄付を受けております。ご協力をお願い申し上げます。

1. ジャイチ基金-育英基金 2. ジャイチ維持費 3. ジャイチ事業費

振込先 番号 郵便番号 005 10-4-65434
銀行振込 八十二銀行丸子支店(普) 420577
口座名 財団法人日本農業研修協力団
住所 〒398-0502 長野県小県郡石川村沖456
電話 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583

◆定期的ボランティア求む

事務局では、事務作業の補助(週一日程度)のボランティアを求めています。

日本では、浅間山の噴火、上越地震と続いた。年末のスマトラ沖地震、巨大津波での犠牲者は、広島、長崎のそれを越えた。

いつ、どこで、どのような災害が起きるか分からない。人々を支援するためにできることはたくさんある。

少なくとも、人間同士が戦っている時代ではなからう。